

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：(公財)吹田市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	SIFA『にこにこ日本語』もっとにこにこ！
事業の目的	平成26年度文化庁委託事業にて少人数クラス「にこにこ日本語」を立ち上げ、土曜日に活動している。当初の設定は「初級後半からの対話型クラス」であり、入門・初級学習者への対応は想定していなかった。しかし、平日の他クラスに参加することが困難な入門・初級学習者からの土曜日クラスへの参加希望が急増した。これに対応するため、教材や指導者の体制を整える。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	吹田市に在住する日本語学習者は、ビジネス関係での来日者とその家族、また、市内に5つある大学に在籍する留学生や研究者とその家族などが多い。教室参加希望者は増加しており、現時点では当協会日本語教室でカバーしきれていない。学習希望者の上記のような属性のため、土曜日の教室へのニーズが増加している。にもかかわらず、土曜日のクラス「にこにこ日本語」は対話型クラスであるため、特に、初級学習者にすぐに対応できる体制がとれていない。指導者も不足している。とりあえずの対応策として初級者向けグループを設置し、一部の指導者に負担がかかった状況で運営しているのが現状だ。様々な学習者を受け入れることのできる教室体制と、指導スキルを持ち教室運営に関われる指導者を養成する必要がある。
事業内容の概要	・日本語教育の実施：既存の少人数クラス「にこにこ日本語」において、入門・初級学習者グループを新設する。新規及び既存グループにおいて、当該事業で作成する教材を使用して、日本語教育活動を充実させる。 ・人材の養成・研修：多文化共生に理解があり、指導スキルを持った日本語ボランティア指導者を養成する。既存ボランティア指導者のスキルアップ及び新規ボランティア指導者の養成を行う。 ・教材作成：既存のオリジナル教材「にこにこ」(平成26年度文化庁委託事業にて作成・現在教室にて活用中・トピックシラバス)をもとに、文型シラバスを盛り込んだ初級者向け教材を作成する。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	澤田 幸子	(一財)海外産業人材育成協会
2	山野上 隆史	(公財)とよなか国際交流協会
3	安田 乙世	NPO法人おおさかこども多文化センター
4	古川 智樹	学校法人関西大学
5	矢谷 久美子	(一財)海外産業人材育成協会所属
6	榎原 智子	(公財)吹田市国際交流協会
7	小林 律子	(公財)吹田市国際交流協会
8	小谷 恭子	(公財)吹田市国際交流協会
9	林 詩	(公財)吹田市国際交流協会
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月2日(金) 14:30～17:00	2.5時間	吹田市国際交流協会 会議室	澤田幸子、山野上隆史、安田乙世、古川智樹、矢谷久美子、榎原智子、小林律子、小谷恭子、林詩	吹田の現状について、各事業の内容検討、養成講座内容及び講師検討と決定
2	平成29年10月14日(土) 13:00～14:00	1時間	吹田市国際交流協会 会議室	澤田幸子、山野上隆史、安田乙世、古川智樹、矢谷久美子、榎原智子、小林律子、小谷恭子、林詩	各事業の報告及び検討
3	平成30年3月5日(月) 15:00～17:00	2時間	吹田市国際交流協会 教室1	澤田幸子、山野上隆史、安田乙世、古川智樹、矢谷久美子、榎原智子、小林律子、林詩、夢田治夫(小谷代理)	各事業の報告、今後の課題について検討

(2) 事業の実施体制

平成26年度文化庁委託事業で立ち上げた「にこにこ日本語」のコンセプト(少人数クラスでの対話型日本語学習)をふまえ、吹田市と周辺の日本語学習者の現状を再確認・共有。
既存教室「にこにこ日本語」の活動の一部として教室活動を進めた。日本語に慣れ日本語で自分を語れる入門学習者向け教材を目標とする教材を作成した。人材育成について、運営委員が連携して連続講座の講師を担当することで、講座内容の流れが途絶えることなく10回講座を開催した。

(3) 地域における連携体制

吹田市内日本語教室等関係機関には、受講者の教室見学の受け入れ、ボランティア登録会等の協力をいただいた。受講者の講座終了後の活動にもつながることができた。
今後は作成した教材を使っていたり、これまで同様ボランティア・学習者の課題を共有する等のご協力をお願いし、ともによりよい地域の教室づくりを目指す。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称： にこにこ日本語 】										
目的・目標	既存の対話型クラスでカバーしきれていない入門学習者・初級学習者が地域で生活していく上で必要な日本語を学べるよう、体制を整え、日本語学習活動を実施する。									
対象	吹田市及び近隣地域に在住する日本語学習を希望する人									
取組の内容	①にこにこ日本語(新設)(初級学習者対応少人数グループ): 既存のオリジナル教材にリンクさせた入門・初級者用の教材を作成し、それを利用して、入門・初級者に対応した学習活動を行う。 ②にこにこ日本語(継続)(対話型少人数グループ): 既存のオリジナル教材「にこにこ」(平成26年度開発)を利用して、継続学習者に対応した対話型学習活動を行う。(＊文化庁委託事業として実施予定であったが、吹田市補助金事業として実施した)									
実施期間	平成29年10月7日～平成30年3月17日					曜日・時間帯		土曜日(10:30～12:00)		
開催回数	①全33時間 (1回1.5時間×22回) ②全60時間(吹田市補助金事業)					開催場所		吹田市国際交流協会教室・会議室・他		
参加者	総数 16人 (日本語学習者 12人、指導者・支援者 4人など)					使用した教材・リソース		当該事業で作成した教材 「はじめてのにこにこ」		
出身・国内別訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	1			3					4	
	台湾1、ロシア1、デンマーク1、南アフリカ1、									
カリキュラム案活用	カリキュラム案を参考にトピック選出して作成した教材を使用して教室活動を実施した。教材の特性上、また対象学習者が入門学習者であることから、会話より自分語りを通して日本語を定着させたうえで対話型活動に発展させることを目指した。									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名	
1	平成29年10月7日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	2	1課 自己紹介	自己紹介をする。		小林律子	坂部嘉代 関谷恭子 長通奈宜佐	
2	平成29年10月14日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	1	1課 自己紹介 (家族)	家族の紹介をする。		小林律子	関谷恭子	
3	平成29年10月21日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	4	2課 私の一日	仕事の日の一日について話す。 カレンダーの言い方等		小林律子	長通奈宜佐	
4	平成29年10月28日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	2	2課 私の一日	前回復習、続き 「にこにこ日本語」の日について話す。		小林律子	関谷恭子 長通奈宜佐	
5	平成29年11月4日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	2	2課 私の一日	前回「にこにこ日本語の日」続き		関谷恭子	坂部嘉代	
6	平成29年11月11日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	1	2課 私の一日	休みの日について話す。		小林律子	長通奈宜佐	
7	平成29年11月18日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	3	2課 私の一日	前回「休みの日」続き		長通奈宜佐	小林律子	
8	平成29年11月25日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	3	3課 ごはん	朝ご飯について話す。		関谷恭子	坂部嘉代	
9	平成29年12月2日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	3	3課 ごはん	駅の近くの店について話す。 い形容詞の導入		坂部嘉代	長通奈宜佐	
10	平成29年12月9日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	4	3課 ごはん	前回「駅の近くの店」続き		小林律子	関谷恭子	
11	平成29年12月16日 (土) 10:30～12:00	1.5	市民公益 センター	3	忘年会	忘年会パーティー (同クラス他グループと合同)		小林律子	坂部嘉代 関谷恭子 長通奈宜佐	
12	平成30年1月6日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	4	お正月、 4課 お出かけ「山 へ」	お正月のこと 「山へ」ことば導入まで		長通奈宜佐	坂部嘉代	
13	平成30年1月13日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	4	4課 山へ	「山へ」パーベキュー続き		小林律子	長通奈宜佐	
14	平成30年1月20日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	6	4課 山へ	「山へ」パーベキュー続き		坂部嘉代	関谷恭子	
15	平成30年1月27日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	3	4課 山へ	「山へ」パーベキュー続き		関谷恭子	小林律子	
16	平成30年2月3日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	5	豆まき 5課 買い物	豆まきについて 「買い物」ことば導入		小林律子	坂部嘉代	
17	平成30年2月10日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	5	5課 買い物	ショッピングモールについて話す		長通奈宜佐	関谷恭子	
18	平成30年2月17日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	2	6課 町	自分のうちの近くについて話す		坂部嘉代	小林律子	
19	平成30年2月24日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	3	6課 町	「自分のうちの近くについて話す」続き		関谷恭子	長通奈宜佐	
20	平成30年3月3日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	5	6課 町	自分の出身の町について話す		長通奈宜佐	坂部嘉代	
21	平成30年3月10日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	5	6課 町	「自分の出身の町について話す」続き		小林律子	坂部嘉代	
22	平成30年3月17日(土) 10:30～12:00	1.5	SIFA会議室	5	7課 私の友だち	友だちについて話す		関谷恭子	長通奈宜佐	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年10月7日】

自己紹介のユニット。写真左：導入として国名を確認しているところです。

写真右：テキスト中の登場人物の自己紹介を絵を見ながらスラスラ言えるようになるまで繰り返します。テキストでは、当教室に参加する学習者の属性を踏まえて、学生、社会人、主婦の3人が登場し、それぞれの自己紹介をします。テキストの自己紹介には、名前や属性の他に「好きなこと」も含まれています。日本語を繰り返しているうちに、学習者は、自分のことを言いたい気持ちになります。この後、自分のことに置き換えて自己紹介をします。ボランティアも自己紹介をします。



○取組事例②

【第15回 平成30年1月27日】

写真左：文や場面ごとのイラストを見て文ごとに意味を理解しながら日本語の音声と合致させ、何度も繰り返して言って口に馴染ませます。

写真右：イラストをみてスラスラと口から日本語が出るくらいになったら、イラストをみて順番に言ってストーリーを完成させます。

この後、自分のことに置き換えて話します。語彙の不十分な点はボランティアが助けます。

定型文の内容を置き換えて話しているだけのように見えますが、繰り返すうちに学習者は、もっと自分のことを話したい！仲間のことを聞きたい！という気持ちになって、話し始めます。



(2) 目標の達成状況・成果

初めは恐る恐る日本語を口にしていた学習者も、積極的に声を出しているうちに日本語で話したくなる。一定の成果は上がっていると思われる。アンケート結果からも、学習者の満足度は高い。少しでも、「自分のことが話せた」「質問に答えられた」という達成感は学習者にとって学習意欲を掻き立てるものである。アンケート実施時も、もっと話したい、もっと勉強したい、という声が聞かれた。ボランティアにとっても、成長の過程が見られる入門・初級グループのやりがいはいは大きい。

(3) 今後の改善点について

・ボランティアの育成。この教材のアプローチはある程度やり方を知り順を追ってきちんと行う必要があるため。

・期の途中でレベルの合わない学習者が参加する場合の対応。できる限りきめ細かく学習者に対応するためにもこのアプローチで活動できるボランティアを増やす必要がある。また、教室の既存の他グループの学習者やボランティアとのバランスを見て対応できる体制づくりも必要。

・グループ内で進みの早い、遅い学習者がある場合、同じ活動をしていても差が出てしまう。そのような場合に隣にいてサポートできるボランティアがいることが望ましい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：日本語支援ボランティア養成講座～気づき、学び、ともに暮らそう～】										
目的・目標	多文化共生への理解があり、日本語学習者を地域で共に暮らす生活者として支援できる日本語支援員を育成すること。グループレッスンができるスキルを持つ日本語支援員、また、入門・初級学習者に対応でき、教室運営にかかわれる日本語支援員を育成・支援すること。									
対象	日本語支援ボランティアに関心のある方									
取組の内容	①多文化共生と日本語学習 ②日本語ボランティア・地域日本語教室の役割 ③やさしい日本語 ④教室活動の進め方 ⑥少人数クラスの進め方 ⑦入門学習者の対応 ⑧子どもの日本語学習 等									
実施期間	平成29年9月23日～平成30年2月3日					曜日・時間帯		土曜日(13:30～16:30)		
開催回数	全30時間 (1回3時間×10回)					開催場所 使用した教材・リソース		千里市民センター多目的ルーム		
参加者	総数 延べ 387 人 (受講者325人、日本語学習者27人、講師・スタッフ35人)							講師作成のハンドアウト等		
出身・国内別訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	6	6		5		1	1			1
	チュニジア1、ロシア2、アメリカ1、ボリビア1、台湾1 (以上第4回、第8回、第9回協力者) 日本 (受講者40、講師・スタッフ9)									
カリキュラム案活用	「生活者としての外国人」のおかれるさまざまな状況について知り、社会の一員としてともにによりよい暮らしをしていくために、地域日本語教室の役割や、日本語ボランティアとしてできること、また心構えについて学んだ。									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名	
1	平成29年9月23日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	38	外国人とともに暮らす社会へ①	日本に暮らす外国人についての概要。日本語ボランティアにできること。様々な教室の紹介とボランティアに求められるもの。		山野上隆史	SIFA	
2	平成29年9月30日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	34	外国人とともに暮らす社会へ②	異文化コミュニケーションとは。日本語ボランティアのあり方、心構え		山野上隆史	SIFA	
3	平成29年10月7日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	37	外国人とのコミュニケーション	やさしい日本語についてと実践ワークショップ		澤田幸子	SIFA	
4	平成29年10月28日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	34	教室見学の気づきを共有しよう&学習者のナマの声を聞こう	第3回と第4回の間に受講者はそれぞれに吹田市内の日本語教室を見学した。その振り返り。後半は実際に学習者が登壇しナマの声を聞いた。		SIFA	SIFA	
5	平成29年11月4日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	30	暮らしに役立つ日本語を考える①	対話型日本語活動とは。日本語ボランティア活動の根底にあるものとは。		安田乙世	SIFA	
6	平成29年11月18日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	33	暮らしに役立つ日本語を考える②	外国にルーツを持つ子どもを含む多様な日本語学習者への対応について		安田乙世	SIFA	
7	平成29年11月25日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	28	暮らしに役立つ日本語を考える③	第8回の模擬活動の準備。文化庁事業で作成した「にこにこ」をテキストとして使用。		矢谷久美子	SIFA	
8	平成29年12月9日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	32	暮らしに役立つ日本語を考える④	第7回で準備した活動の実践。実際に学習者を迎えるの模擬活動。後半、その振り返り。		矢谷久美子	SIFA	
9	平成30年1月27日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	29	教室活動のふりかえり &日本語入門期学習者との交流・支援とは？	受講者は各教室にボランティアとして参加した。その振り返り。後半は、外国人に教える役となってもらい入門学習者体験。		古川智樹	SIFA	
10	平成30年2月3日(土) 13:30～16:30	3	千里市民センター多目的 ルーム	30	さあ、始めよう！日本語ボランティア	これからのボランティア活動に向けて。		澤田幸子	SIFA	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 平成29年10月28日】

当協会の日本語教室に参加している学習者5名に話を聞いた。まず、全体でインタビュー、そのあと、学習者に受講者のグループに入ってもらってやさしい日本語を使いながら直接話を聞いた。日本語学習における要望や問題点のみならず、日本での生活や就労についての学習者の困り感を感じ取ったり、地域のボランティア教室の存在の大切さを理解した。学習者のナマの声を聞くことで、たくさんの気づきがあった。また、受講者の活動意欲も高まった。これを活かして、よりよいボランティア教室・ボランティア活動を目指していく。
登壇学習者の国籍は 中国、韓国、ベトナム、チュニジア



○取組事例②

【第9回 平成30年1月27日】

関西大学の留学生5名に教える役をしてもらい、受講者は学ぶ立場で、全く初めての言語学習体験を行った。言葉が全くわからない状況で対話することの不安や難しさ等、学習者の気持ちを味わった。第1回～8回の講座で学んできたボランティアの心構えを踏まえて、学習者を迎え入れともに活動していくボランティアとして気を付けなければならないことを実感として理解した。これからの活動に役立つ活動となった。
協力してくれた留学生の国籍は 中国、韓国、タイ



(2) 目標の達成状況・成果

連続10回の講座を通して、講座内容についての受講者アンケート結果は、1名「ふつう」を除き、全員が「とてもよかった」または「よかった」にチェックした。満足度も高く、即戦力となりうるボランティアの育成に貢献できたと思われる。教室での実践につながる講座となり、修了者の約半数が実際に講座開催中または受講後に活動を始めた。
また、外国にルーツを持つ子どもに関する内容を随所に取り入れたところ、これに対する関心も高まり、実際に子どもの教室での活動を始めたり、予定していた成人向け教室から子どもの教室への参加に変更した受講者もいた。

(3) 今後の改善点について

日本語文法や教授法といったいわゆる「日本語教育」に関する内容を減らし、多文化共生や地域教室の役割や学習者の理解等に重きを置いた内容であったため、もう少し「日本語」について知りたかった、との声が聞かれた。活動への一歩を踏み出すために不安を取り除く意味でも、最低限の知識を盛り込むことも必要な場合がある。
また、各講師が、3時間の講座を工夫した結果、グループでのワークショップが多めになった。講座のテーマや内容だけでなく、具体的な活動についてもすり合わせておくとなお良かった。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：はじめてのにこにこ】			
目的・目標	生活に役立つ実践的な教材を作成する。 入門・初級学習者にも対応できる文型シラバスを盛り込んだ教材を作成する。既存のオリジナル教材「にこにこ」とリンクさせる。		
対象	①入門・初級学習者。母語は限定しない。 ②既存学習者、初級後半～中上級学習者。母語は限定しない。一教材作成編集会議・運営委員会にて検討の結果、②は作成せず①に専念することとなった。		
教材の内容	①生活に必要な日本語文型を盛り込んだ対話型活動为目标とする教材。各種資料。活動の進め方と手引き。 下写真はテーマ「町」文型「います・あります」のユニットの一部 ②既存の対話型教材「にこにこ」をトピックを広げて再検討し続編を作成する。→②作成中止。理由は上記の通り。		
実施期間	平成29年6月11日～平成30年3月20日	成果物のリンク先	
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回 2時間 × 30回 = 60時間分	教材の頁数	86ページ（＋副教材）
カリキュラム案活用	カリキュラム案を参考にトピック選出して教材を作成した。また同様に作成した平成26年度作成の教材とリンクさせて作成した。教材の特性上、また対象学習者が入門学習者であることから、会話より自分語りを通して日本語を定着させたいという対話型活動に発展させることを目指した。		
教材の活用方法	大まかな活動の流れ①イラストを見ながら日本語を聞き、意味を理解したうえで音声として繰り返してしっかり口に馴染ませる。②文字で確認しさらに口に馴染ませる。③質問に答えて内容をしっかり理解する。④自分のことについて話す。		
今後の活用の予定	SIFA教室「にこにこ日本語」にて使用。また、市内教室等への頒布。成果を得るためには正しく活用してもらう必要があり、ボランティア研修や吹田市・近隣の交際交流協会や日本語教室等への教材説明会・ボランティア研修等を教材頒布とともに行うことを検討。		

やまだ
「山田さんの話」

ばんぼくこうえん
万博公園を

しょうかい
紹介します。

わたしの うちの 近くに 万博公園が あります。

ばんぼくこうえん
万博公園に

たいようとう
「太陽の塔」が

おおきい
あります。 大きいです。

そして

とても 有名です。 わたしは 太陽の塔が 好きです。




4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

平成26年度文化庁委託事業で立ち上げた「にこにこ日本語」のコンセプト(少人数クラスでの対話型日本語学習)をふまえ、吹田市と周辺の日本語学習者の現状を再確認・共有。
既存教室「にこにこ日本語」の活動の一部として教室活動を進めた。日本語に慣れ日本語で自分を語れる入門学習者向け教材を目標とする教材を作成した。
人材育成について、運営委員が連携して連続講座の講師を担当することで、講座内容の流れが途絶えることなく10回講座を開催した。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

地域住民の、日本語ボランティア活動に対する関心は、大きいものがある。養成講座の受講者は、当初の予定人数を増やし、抽選にて決定した。このような地域における地域日本語教室は取り組み次第でよりよいものとなっていくであろう。10回連続講座受講後のアンケート結果からも、地域日本語教室の意義や子どもへの対応の重要性をしっかりと理解し、これからの活動に役立てていただけることを確信している。
作成した教材は、耳からのインプット、口からのアウトプットを軸においた音声重視教材と言える。このやり方は一般的にはまだ広まっていないと思われるが、教室で実際に入門・初級学習者とともに活動してみると、明らかに一定の成果が上がっている。この教材のアプローチを周知し、是非、入門・初級学習者対応に苦勞している地域教室の方々にお試しいただきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案に記載されている生活上の行為の事例と、吹田における外国人の属性や生活スタイルを合わせて考慮し、さらに入門学習者用教材であることから文型も盛り込んで積み上げていくことができる教材を目指した。最終的には自分のことを語る意欲につなげ、それに足る日本語彙等をサポートしながら日本語を身につけてもらう。カリキュラム案の事例と文型積み上げ式の入門・初級学習者の日本語ニーズを結びつけた教材を作成することは簡単ではなかった。カリキュラム案にあるような生活行為の場面で学習者が実際に日本語を使う少し先まで学習意欲をつなげていくことも必要だ。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

吹田市内の各日本語教室には、養成講座受講者の教室見学を受け入れ、ボランティア登録会と事前説明会の開催と受け入れ等のご協力をいただいた。また、市内教室でボランティアとして活動中の方も講座を受講され、地域教室に持ち帰った。
運営委員の方々やその関係機関からのご協力もいただいた。養成講座での学習者・留学生の協力は、当協会日本語教室、市内日本語教室、運営委員関係機関の協力によるものである。受講者アンケート結果からも、これらの協力によって得たものは大きかったことが明らかである。
今後も市内日本語教室や関係機関との連携は教室運営や作成した教材の周知等において欠かせないものである。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

当協会広報誌、ホームページ、フェイスブック等、また、市報、市内各機関や市内各日本語教室にチラシを配布する等で周知。事業成果の発信についても同様。当該事業にて作成した教材を使った教室は来年度以降も継続。
作成した教材は、当協会教室での使用とボランティア育成はもちろん、市内、近隣の国際交流協会や日本語教室への周知・頒布と活動の進め方講座開催等を検討中。

(6) 改善点、今後の課題について

学習者、ボランティア、双方にとって、地域の日本語教室の役割は大きい。特に学習者にとっては居場所ともなり得、外国人が増えていくであろうこれからの社会に欠かせないものである。
ここでボランティア育成や教材の充実のために尽力できたことは、今後につながる意味でも意義のあることだったと考える。
今後さらに良い教室・活動にしていくために、教室環境、運営、ボランティアの育成等、継続してサポートしていくことが必要かと思われる。

(7) その他参考資料

日本語支援ボランティア養成講座チラシ